

## 「みえの現場・すこいやんかトーク（津市）」の概要

2月9日（木）に津市にありますサンデルタ香良洲で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、伝統文化を守りながら、地域の活性化などに取り組まれている区長、副区長の皆さん16名にお集まりいただき、取り組まれている事業の内容や成果、行政へ期待していることなどのお話をお伺いしました。



### 【参加者の発言】

参加者の皆さんから、以下のような意見をいただきました。

お木曳き行事は20年に一度あって、伝統行事を守るということは大事なことであるが、お金がかかる。県からも援助してもらいたい。

昭和28年にできた香良洲橋は、震災発生時に一番遠くに逃げられる防災上重要な橋である。測量設計は終わっていると聞いているが、のびのびで、なかなか架け替えができないのが現状である。橋は高校生が通学に使っているが幅が狭くトラックで通ると危険な状況であり、また、災害時に伊倉

津側に逃げるといっても津波の恐れもあるので、大至急なんとかならないかと思う。

震災時はみんなが一斉に逃げるので橋が渋滞で動かないことも考えられる。中学校の裏の避難場所に、5階か6階建てくらいの避難ビルを建ててもらえたらありがたい。

平成23年の台風12号で海岸に流木が流れついて汚い状態である。これから潮干狩り、たて干し、海水浴の時季となる。県外から多くのお客さんが来るので、早く処理してほしい。

今よりずっと苦しい時代があったが、それでも伝統行事を守り続けてきている。例えば、学校教育の場などでも、お金よりも大事なものがある、心の教育、そういうものをしていただければありがたい。



#### 【知事の発言】

知事からは、以下のような発言がありました。

来年度の県予算は、今年より減額しており、相当厳しい状況になっている。昔みたいに税収も右肩上がりの時代であれば、いろいろやりたいが、今聞かせてもらったことを全て実現するというのは難しい。役割分担も踏まえ

で考えていく必要がある。

地元の避難所を作るのは、市や町の役割になっている。例えば、市で避難タワーとか避難ビルとかを造る場合など、市でお金が足りないという時に、県も補助できる制度がある。津市にもご要望の趣旨は伝える。

海岸漂流物とか、流木の関係は、規模によって災害復旧事業など国でやるケースもあれば、県や市で対応するケースもある。香良洲の海岸部分がどうなっているか、確認したい。

区長さんたちが現場でどういうことで悩んでいるのか、改めて具体的に知ることができたので、しっかり実態を受け止めてこれからも県政推進に頑張っていきたい。